

chapter 2

オンライン上のつながり・コミュニケーション

中高生は、オンライン上でどんな人とどのようにコミュニケーションをしているのでしょうか。中高生のオンライン上のネットワークはふだんの学校などの人間関係の延長だけでなく、ネット利用者の4分の1にオンライン上の知り合いがいることがわかりました。また、中高生の5人に1人は、趣味に関する情報発信やコミュニティに参加しています。

オンライン上のネットワークが広がる中で、「メールがきたらすぐに返事を出す」人が半数を超え、コミュニケーションを大事にしている様子がうかがえる一方で、「メールのやりとりが嫌になることがある」と感じている人も少なくありません。楽しさの反面、煩わしさも感じているようです。

そんな中高生のオンライン上のコミュニケーションの様子をのぞいてみましょう。

Contents

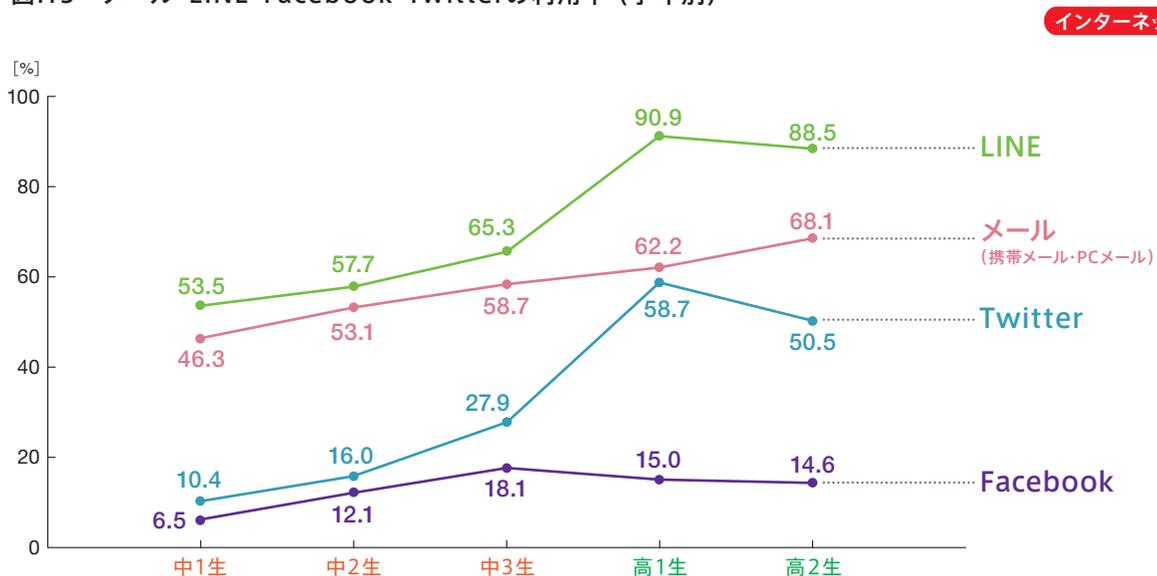
2-1	メール、LINE、Facebook、Twitter、 どれを使ってる？	17
2-2	オンライン上で誰とつながっている？	18
2-3	オンライン上で知り合った人と 会ったことのある割合は？	19
2-4	オンライン上のコミュニケーションについて どう感じている？	20
2-5	自ら投稿や発信をしていますか？	21
2-6	趣味でつながっている？	22
2-7	インターネットやICTメディアの影響、 あなたの考えはどっち？	23
column	趣味でつながる中高生の世界	24

LINEは中1で5割超、高校生では約9割が利用。 Twitterも高校生では5割を超える。

メール(携帯メール・PCメール)、LINE、Facebook、Twitterの利用率は、中高生とも、「LINE」と「メール(携帯メール・PCメール)」の利用が多いが、高校生では、「LINE」が9割にのぼり、「Twitter」も5割を超える。さらに、その組合せをみたものが図15である。中学生では、どれも利用していない(=「あてはまるものはない」)が最も多いが、次いで「メール+LINE」の併用が2割、高校生では、「メール+LINE+Twitter」「メール+LINE」の組合せがいずれも2割強で多くなっている。

Q あなたはふだん、友だちとコミュニケーションをする時に次のようなものを利用していますか。

図.15 メール・LINE・Facebook・Twitterの利用率(学年別)



注) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。

表.04 メール・LINE・Facebook・Twitterの利用組合せ(上位7つ)

インターネット利用者

中学生	高校生
あてはまるものはない	メール + LINE + Twitter
21.7	23.9
メール + LINE	メール + LINE
20.7	23.4
LINEのみ	LINE + Twitter
17.2	17.0
メールのみ	LINEのみ
15.9	10.9
メール + LINE + Twitter	メール + LINE + Facebook + Twitter
7.0	8.3
メール + LINE + Facebook + Twitter	メールのみ
3.7	6.7
LINE + Twitter	LINE + Facebook + Twitter
3.6	4.4

注) 対象は、中学生2,796名、高校生6,070名。

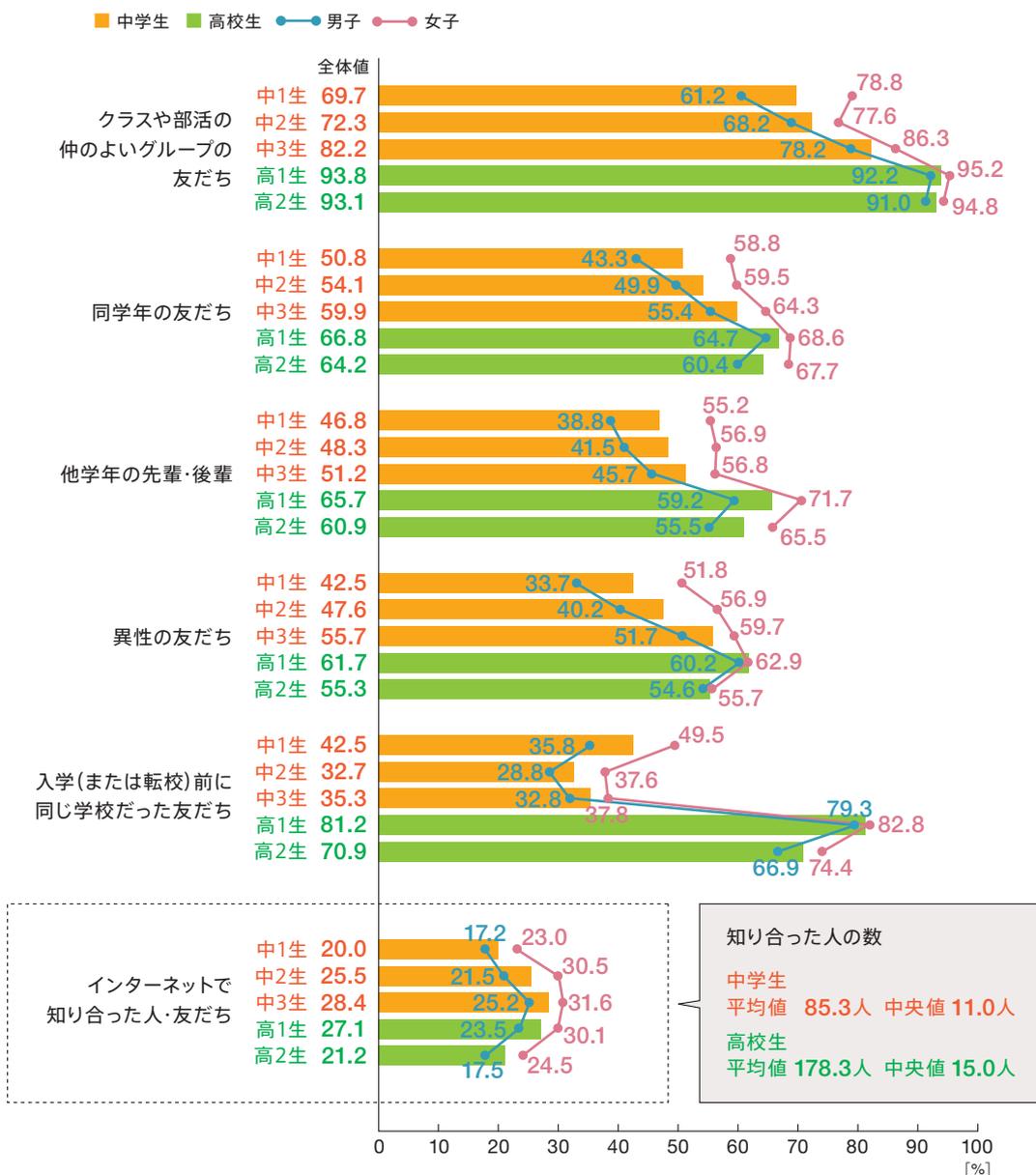
インターネットで知り合った友だちがいる割合は 中3が最も多く28.4%、女子では31.6%に。

メールやSNSなどでのつながりの範囲についてたずねた。「クラスや部活の仲のよいグループの友だち」とつながっている割合は、中1生で7割、高校生では9割を超え、「他学年の先輩・後輩」や「異性の友だち」とのつながりも、中学生で4～5割台、高校生では5～6割台がつながりをもっている。また、「インターネットで知り合った人・友だち」がいる割合は、いずれの学年も2割以上で、最も高いのは中3生の28.4%である。性別にみるとどの項目でも女子の方が高くなっている。

Q あなたはふだん、次のような人とメールやチャット(LINEなど)やSNS(mixi、Facebookなど)、Twitterでつながっていますか。

図.16 オンライン上のつながりの有無

インターネット利用者



注) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。

インターネット上で知り合った人や友だちがいる人のうち、 会ったことのある割合は中学生23.6%、高校生34.7%。

インターネットで知り合った人がいる人のうち、直接会った経験のある人の割合は、中学生23.6%、高校生34.7%である。高校生の方が実際に会った割合が高い。これを、インターネット利用者に占める割合で見ると、中学生は5.8%、高校生は8.4%にあたる。会った人と知り合ったきっかけは、中学生では「チャット(LINEなど)のグループ」、高校生では「Twitter」が多くなっている。

Q インターネットを通じて知り合った人と、直接会ったことがありますか。
また、会ったことがある人は、これまで会った人数、知り合ったきっかけをご記入ください。

図.17 オンライン上で知り合った人と会った経験・人数

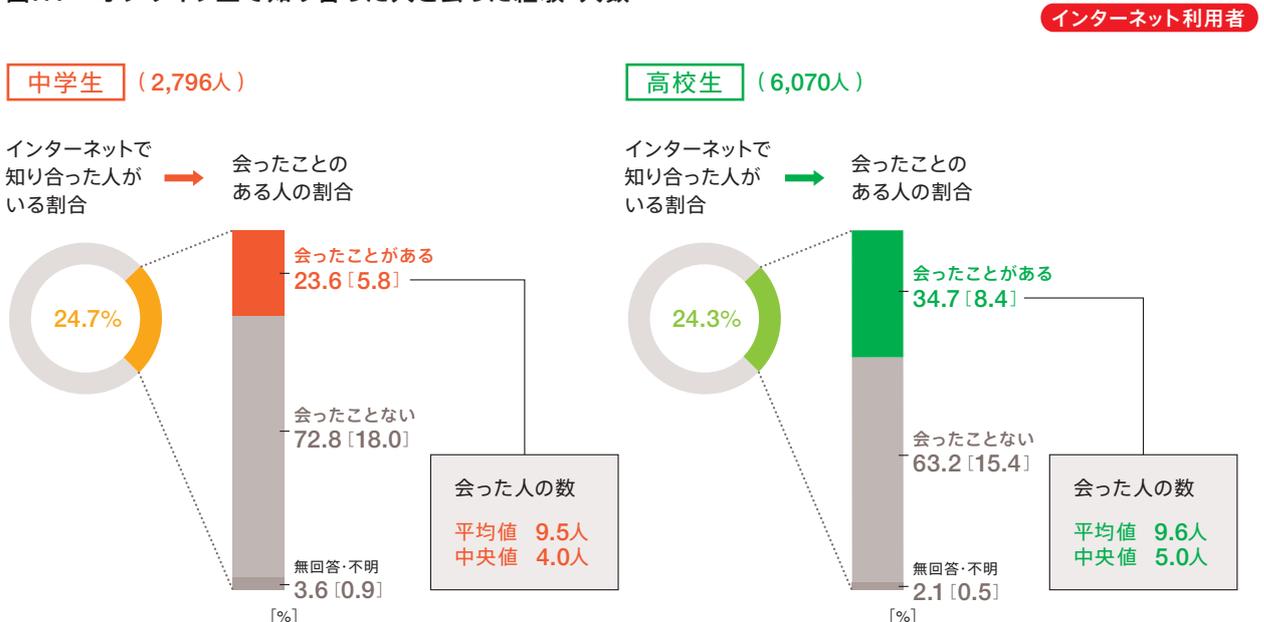
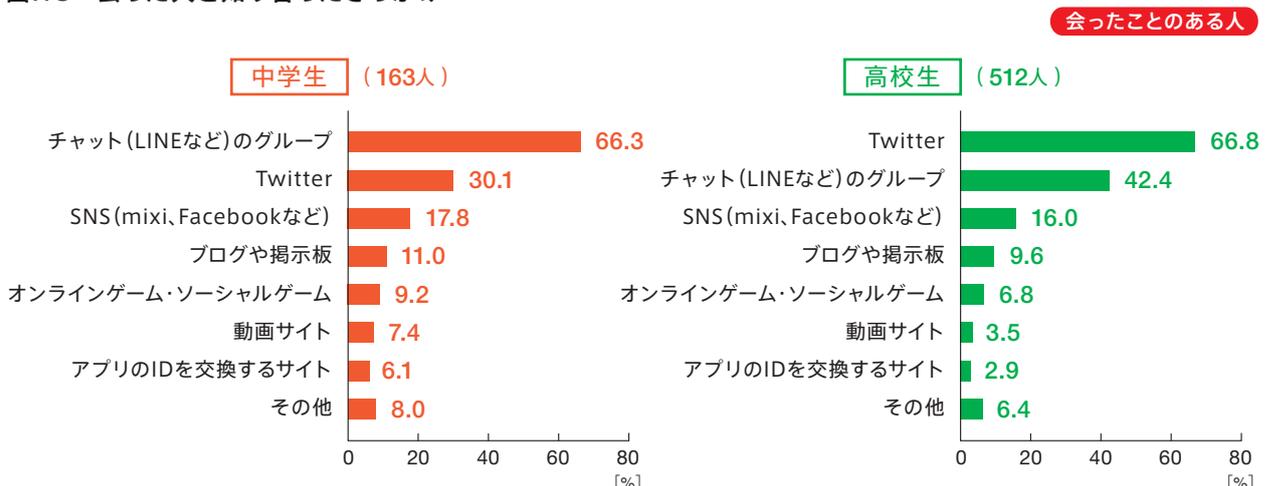


図.18 会った人と知り合ったきっかけ



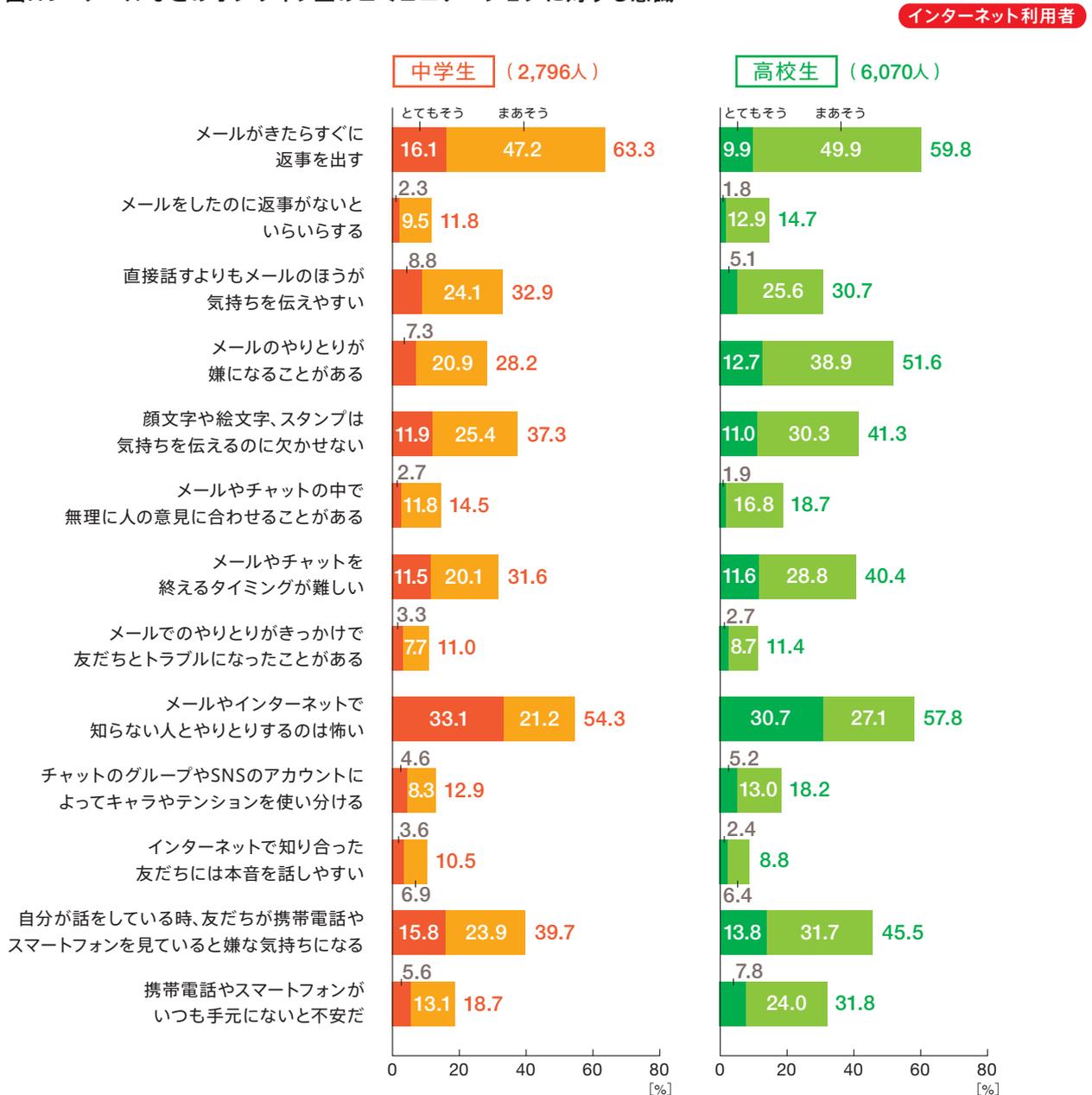
メールやSNSを利用している高校生の半数が「メールのやりとりが嫌になることがある」。

メールなどのオンライン上のコミュニケーションに関して、「メールがきたらすぐに返事を出す」のは、インターネット利用者のうち、中学生63.3%、高校生59.8%（「とてもそう」+「まあそう」の%、以下同）とコミュニケーションを大切にしている様子がうかがえる一方で、「メールのやりとりが嫌になることがある」（中学生28.2%、高校生51.6%）や「メールやチャットを終えるタイミングが難しい」（中学生31.6%、高校生40.4%）と煩わしさを感じている中高生も少なくない。また、「メールでのやりとりがきっかけで友だちとトラブルになったことがある」のは中高生ともに1割程度であった。

Q 次のようなことはあなたにどれくらいあてはまりますか。

※「メール」にはチャット（LINEなど）やSNSの個人宛のメッセージも含まれます。

図.19 メールなどのオンライン上のコミュニケーションに対する意識



情報共有や共感、投稿は高1女子が最も活発。

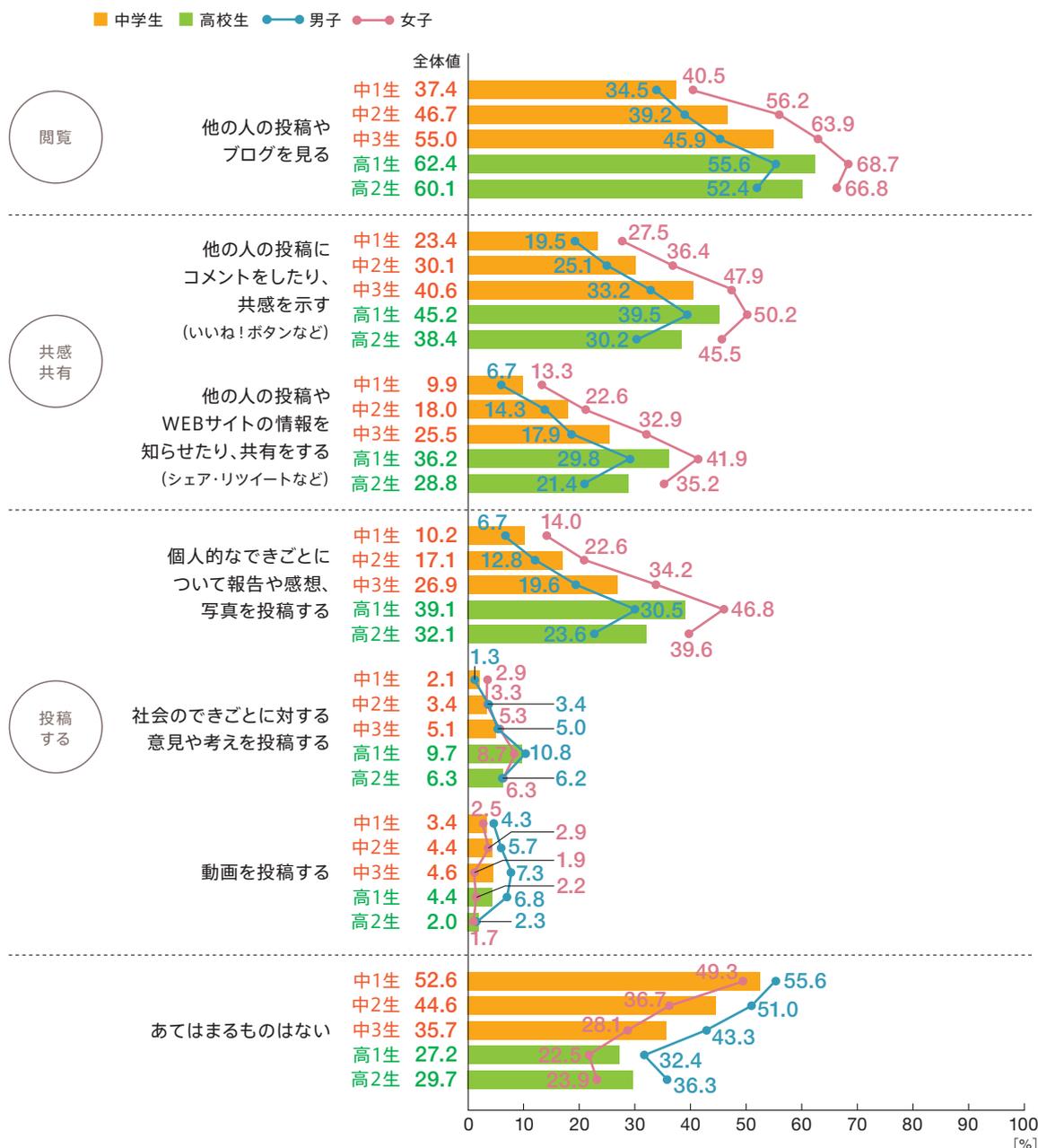
社会のできごとに対する考えや動画の投稿は中高生とも1割に満たない。

「他の人の投稿やブログを見る」ことや、「他の人の投稿にコメントをしたり、共感を示す」「他の人の投稿やWEBサイトの情報を知らせたり、共有をする」といった共感、共有は、女子の方が全般に行っている割合が高い。自らの投稿については、「個人的なできごと」について投稿を行っているのは高1生で4割で、これも女子が高い。一方、「社会のできごと」に対する投稿をしている割合は、最も多い高1生でも1割程度で、どの学年でもおしなべて低い。「動画を投稿する」もわずかであった。

Q あなたはふだん、インターネットを使って次のようなことをしていますか。

図.20 情報の共有や発信（学年別）

インターネット利用者



注) 対象は、中1生911名、中2生946名、中3生939名、高1生3,231名、高2生2,839名。

中高生の2割はオンライン上で趣味のつながりをもつ。 男子は「ゲーム」、女子は「タレントやアーティストの情報収集」。

中高生の趣味のうち、ネット上で趣味の情報発信やコミュニティへの参加を行っている人の割合は、中高生とも全体で約2割であった。男子より女子が高く、約4分の1が該当する。さらにその趣味の内容をたずねたところ、多いのは、中高生とも1位が男子は「ゲーム」、女子は「好きなタレントやアーティストの情報収集やコンサートに行く」であった。特に高校生女子は「好きなタレントやアーティスト」関連のつながりが4割と高くなっている。

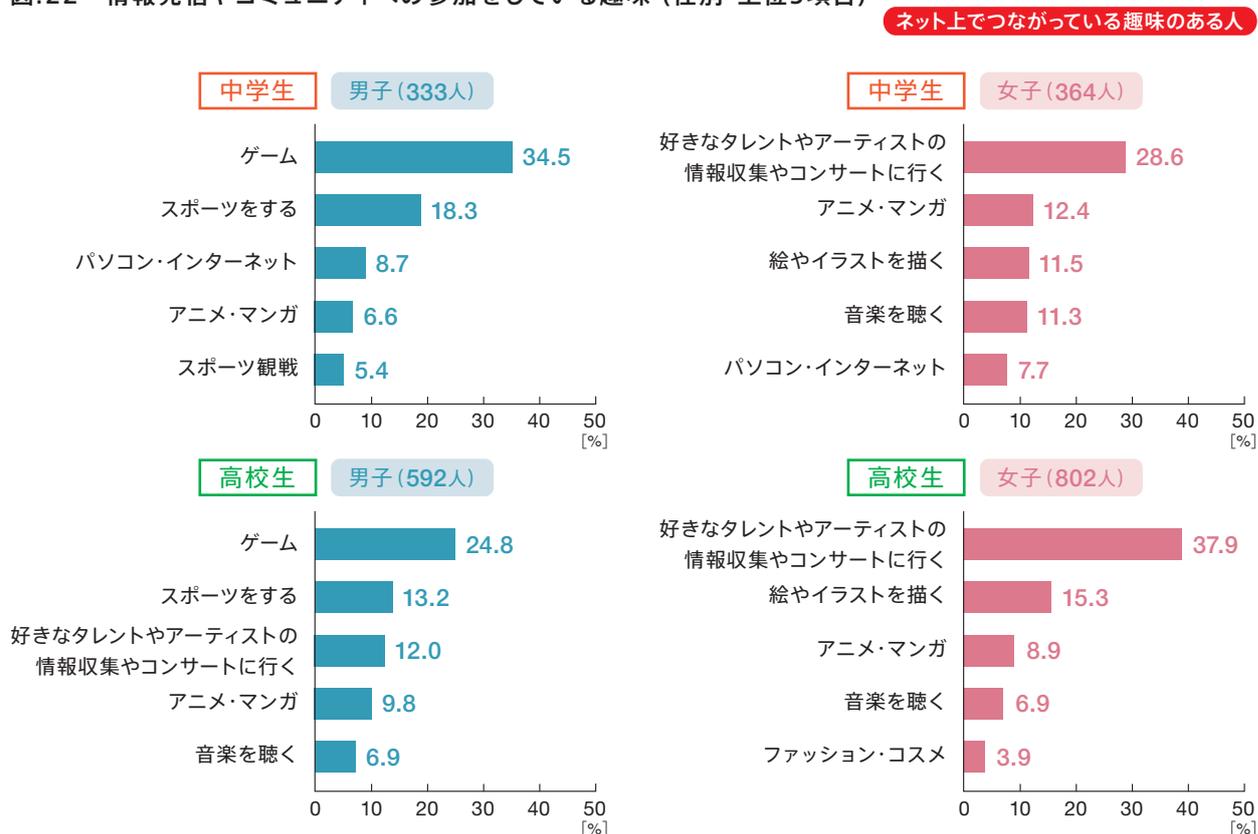
Q あなたの趣味のうち、インターネット上で、あなたが情報や作品などを発信したり、趣味のグループやコミュニティに参加しているものはありますか。

図.21 趣味の情報発信やコミュニティへの参加の有無（全体・性別）



注) 対象は、中学男子1,717名、中学女子1,482名、高校男子3,001名、高校女子3,238名。

図.22 情報発信やコミュニティへの参加をしている趣味（性別・上位5項目）



注) この質問は、最初に趣味全般をたずね、次に、そのうち「インターネット上で情報発信やコミュニティへの参加をしている趣味」をたずねた結果である。そのため、「スポーツをする」と「スポーツ観戦」はあらかじめ分けてたずねている。

「携帯電話やスマホはコミュニケーションの力を伸ばすと思わない」が半数を超える。

「インターネットと覚えることの必要性」と「携帯電話・スマートフォンのコミュニケーション力への影響」について考えをたずねた。前者については「インターネットで調べられることでも、できるだけ覚えておいたほうがよい」が中高生とも6割超で、08年に実施した調査結果*とあまり変化はみられない。一方、後者は「コミュニケーションの力を伸ばすと思わない」が中高生とも増加した。これは、08年は「携帯電話」しかなかったが、「スマートフォン」の登場により、コミュニケーションの形が変化していることが影響しているのではないかと推察される。

Q 次のような2つの意見について、あなたの考えに近いものはどちらですか。

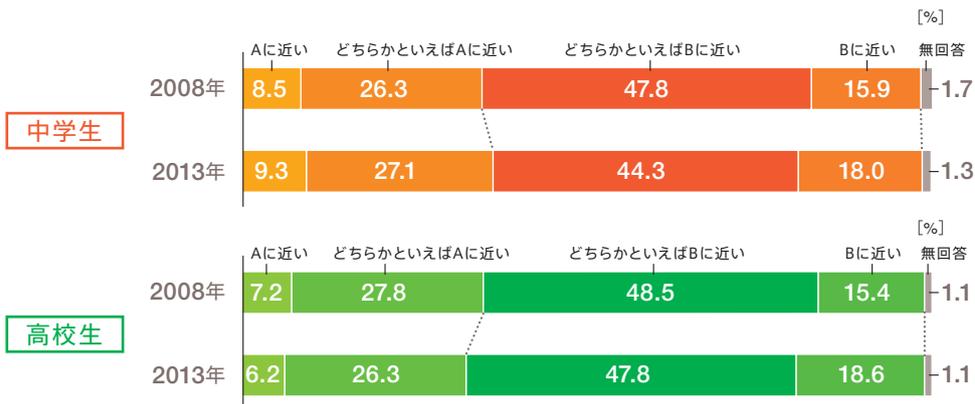
図.23 インターネットやICTメディアに対する意識

全体

① インターネットと覚えること

A：インターネットで調べられることは、無理に覚える必要はない

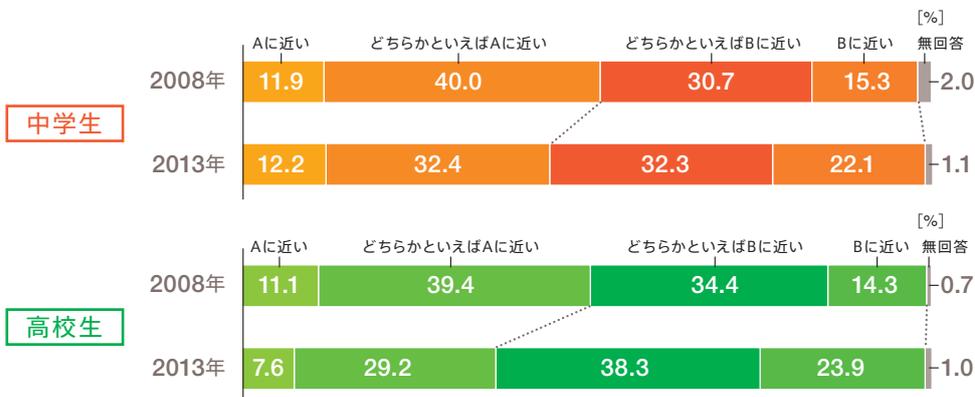
B：インターネットで調べられることでも、できるだけ覚えておいたほうがよい



② 携帯電話・スマートフォンとコミュニケーション力

A：携帯電話やスマートフォンはコミュニケーションの力を伸ばすと思う

B：携帯電話やスマートフォンがコミュニケーションの力を伸ばすとは思わない

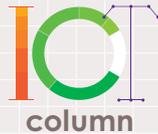


注1) 「②携帯電話・スマートフォンとコミュニケーション力」について、

2008年は「携帯電話はコミュニケーションの力を伸ばすと思う／伸ばすと思わない」としてたずねている。

注2) サンプル数は、08年：中学生3,298名、高校生3,823名、13年：中学生3,203名、高校生6,265名。

*2008年の「子どものICT利用実態調査」については、ベネッセ教育総合研究所のWEBサイト (<http://berd.benesse.jp/>) を参照。



趣味でつながる 中高生の世界

今回の調査結果から、インターネット上で趣味の情報や作品を発信したり、趣味のグループやコミュニティへの参加といったオンライン上の趣味のつながりをもつ中高生が2割いることがわかった。趣味の内容は、男子が「ゲーム」女子は「タレントやアーティストの情報収集」が多い(p22参照)。ここでは、オンライン上のつながりをもっている子どもたちにどのような特徴があり、どのようにICTメディアを使っているのか、詳しくみてみよう。

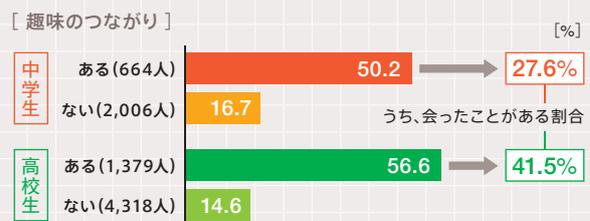
趣味のつながりのある人は ネット上で知り合った友だちが多い

「ネット上で知り合った人・友だち」がいる割合は、**高校生で56.6%、中学生で50.2%**

趣味のつながりのある中高生の約半数は「ネットで知り合った人・友だちがいる」と答えており、そのうち高校生では41.5%、中学生では27.6%が実際に会ったことがあると答えている。趣味のつながりのある人は、オンライン上での人とのつながりをもつ割合が高いのに加えて、オフラインにも移行しやすいことがわかる。

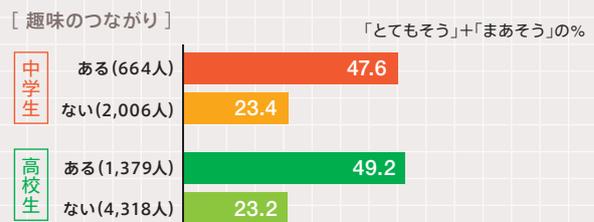
また、意識面についても、趣味のつながりのある人は、そうでない人に比べて「インターネットやメールでたくさんの人とつながりたい」と思っている人が多く、約半数がそう感じている。単に趣味をもっているだけでなく、こうした人間関係やコミュニケーションの志向性がネット上での活動の活発度に影響を与えていることが推察される。

■ インターネットで知り合った人・友だちがいる割合



注) 対象は「インターネット利用者」。以下同様。

■ 「インターネットやメールでたくさんの人とつながりたい」



高い「Twitter」の利用率

高校生のフォロワー数の平均は381人

趣味のつながりのある人となない人を比較して特徴的なのは「Twitter」の利用率の違いである。趣味のつながりのある人は、「Twitter」を「ほぼ毎日」使っている人が高校生で62.4%、趣味のつながりのない人の33.3%の倍近くとなる。中学生は全体として「Twitter」の利用率が低いものの、趣味のない人が9.3%であるのに対し、趣味のある人は33.4%と顕著に高い。「Twitter」が趣味に関する情報収集や発信のツールとして利用されている面があるのだろう。

さらに、高校生のTwitterのフォロワー数をみると、趣味のある人は平均381.3人で、趣味のない人が277.0人であるのに対し大きな違いがみられる。一方、「LINE」でつながっている友だちの数は、趣味のつながりのある人では143.8人、ない人では116.0人とやはり趣味のつながりのある人が高いが、「Twitter」ほどの違いはみられない。また、調査では、「話をしたり一緒に遊んだりする友だち」「悩みを相談する友だち」といったリアルを中心とした友だちの数についてもたずねているが、それらにはほとんど差がなく、趣味のつながりやネット上でつながっている人の数は、リアルの友人関係にはあまり影響を与えていないようである(下表)。

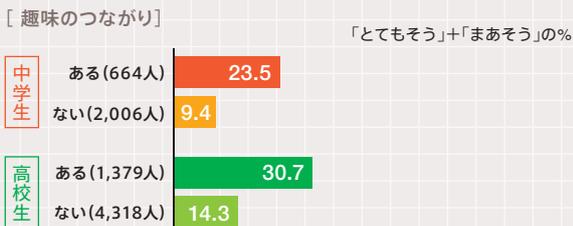
また、高校生では、趣味のつながりのある人の3分の1が「チャットのグループやSNSのアカウントによってキャラやテンションを使い分ける」と答えていることも特徴的だ。リアルの延長のつながりと趣味のつながりで見せる顔は異なっているのかもしれない。

Twitterのフォロワー数・LINEの友だち数と「話をしたり遊んだりする友だち」の数(高校生)

趣味のつながり	Twitter フォロワー数		LINEの 友だちの数		話をしたり 一緒に遊んだり する友だちの数	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない
平均値(人)	381.3	277.0	143.8	116.0	30.8	29.1
中央値(人)	200.0	139.0	110.0	100.0	15.0	10.0

注) 中学生にはたずねていない。

「チャットのグループやSNSのアカウントによってキャラやテンションを使い分ける」



インターネットの利用時間は長時間

休日は3分の1が5時間以上利用

しかしながら、趣味のつながりのある人のインターネットの利用時間は、休日で「5時間以上」が3分の1と長時間利用の割合が高く、「携帯電話やスマートフォンがいつも手元にないと不安だ」という質問に対して肯定する回答が、高校生で4割と、趣味のない人より高い傾向がみられている。もちろん、趣味によっても状況は異なり、つながっている趣味が「ゲーム」の場合はゲームの利用時間が長いのは当然のことながら、「タレントやアーティストの情報収集」の場合は、ネット時間の他にも「テレビを見る時間」も長い傾向がみられている(図は省略)。

インターネットの利用時間

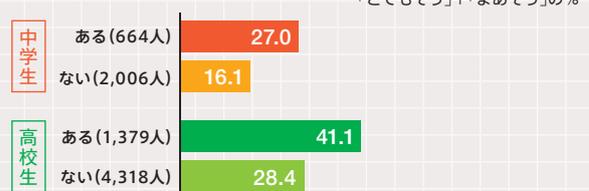
[趣味のつながり]



注) 「5時間以上」は「5時間くらい」と「5時間より多い」の合計の割合を表す。

「携帯電話やスマートフォンがいつも手元にないと不安だ」

[趣味のつながり]



インターネット上での趣味のつながりは、学校や住んでいる場所などの環境的な制約を受けずに、自分と興味・関心と同じくする人とつながって交流することができることや趣味や好きなことに関して表現する場をもてるといったメリットのある一方で、利用が長時間になりがちで依存的な傾向を示す割合も相対的に高くなっている。

現在は中高生の2割程度に過ぎないが、今後ネット上のコンテンツ・サービスの充実やスマートフォンなどの普及が一層進めば、このようなつながりをもつ中高生が増えていく可能性は高い。こうしたオンライン上の世界が今後どの程度広がり、中高生の生活や文化にどのような影響を与えていくのか注目していきたい。

ベネッセ教育総合研究所 吉本 真代